

コード No. 18628

**Anti-Rat
Osteopontin (O-17) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに : Osteopontin (OPN)の構造は、Glu, Gln, Asp, Asn が、総アミノ酸の半数以上を占めるという特徴的なタンパク質で、中央部にはトロンビン開裂部位が存在します。そのすぐ N 末端側には、細胞接着配列である GRGDS 配列を有し、インテグリン $\alpha\beta 3$ (ビトロネクチン受容体)と結合を示すことが知られています。OPN は、破骨細胞の $\alpha\beta 3$ と結合することにより骨吸収調節をおこなっている可能性があり、骨研究において注目されています。また CD44 と結合するという報告もあり、がん転移における OPN の関与が示唆されています。また、トロンビンにより切断された OPN の N 末側の断片 (OPN N-Half) は $\alpha 4$ や $\alpha 9$ インテグリンと接着するとの報告があり、多くの炎症性疾患などとの関連も示唆されています。
- 免疫抗原 : ラット Osteopontin の N 末部分合成ペプチド (LPVKVAEFGSSEEKAHY)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~2 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン切片 : マイクロウェーブ処理(10 mM クエン酸緩衝液 pH 6.0))
: ウェスタン・ブロッティング 約 2 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : リコンビナント、native form 両方の OPN を検出可能
トロンビンでされた OPN も検出可能
マウス、ヒトの OPN とは非交差
- 参考文献 : 1. Kon S. *et al.* Antibodies to different peptides in osteopontin reveal complexities in the various secreted forms. J. Cell Biochem 2000 Jun; 77(3): 487-498